

私にとっての

「いま、あらためて『活字文化』を考える」

私立大学図書館協会総会・研究大会当番校を終えて

折戸 晶子*

はじめに

2001年8月7日（火）・8日（水）、第62回私立大学図書館協会総会・研究大会が明治大学に於いて開催された。

本学リバティタワーで開催された総会・研究大会は、メインテーマに「いま、あらためて『活字文化』を考える」を掲げ、加盟館432校から、延べ約1,000名が参加する盛大なものであった。これと並行して、リバティタワー1階と2階を利用して図書館設備・機器・メディア展示会が開催された。

第1日目の開会式は、野上修市図書館長の開会の辞に始まり、山田雄一学長から大会参加者を歓迎する挨拶、協会会長校である中京大学長谷川端図書館長の挨拶があった。続いて永年勤続者表彰、協会賞の表彰式が行われ、昼食時にはこれらの方々の方々の午餐会が開催された。午後には、総会があり、協会活動の報告や審議がなされた。その後、元図書館長である後藤総一郎理事・政治経済学部教授による記念講演「冒険としての読書」があり、夜には東京ドームホテルで総会懇親会が行われた。

第2日目の研究大会は、中村雄二郎名誉教授による講演「活字文化と大学図書館」、シンポジウム「活字文化と大学図書館」、続いて全国の図書館関係者への実質的な披露となる新・中央図書館の見学会が行われ、閉会式

*おりと・あきこ／図書館庶務課

で幕を閉じた。閉会式では、協会会長校の中京大学長谷川端図書館長に続き、次年度の協会総会当番校である愛知学院大学黒部通善図書館長が挨拶された。最後に、本年度協会総会当番校として野上修市図書館長が閉会の辞を述べ、閉会となった。

以上が2日間の概要である。この大会の準備には、運営プロジェクトが中心となってあたった。私は、運営プロジェクトの事務局として業務を任されていた。30数年ぶりに本学を会場に開催する全国大会であるが、今回その記録を書き残す機会を与えていただいたので、この大会の成功のためにご尽力いただいた図書館スタッフやその他多くの方々へ感謝の意を表すため書き記したい。

総会当番校の任務と任期

振り返ればこの日を迎えるまで、無我夢中で走ってきたように思う。本学図書館は、1999年4月～2001年3月までの2年間、私立大学図書館協会会長校を務めた。一方、新・中央図書館の建設を行い、2001年3月14日にその開館セレモニーを開催し、同16日に開館した。開館にこぎつけるまでには、図書館をあげて大変な労力と時間を要してきた。そして、この大会をこの時期に行うことで、新しい図書館を全国の方々に披露する絶好の機会となった。

私立大学図書館協会総会・研究大会は、毎年場所を変えて開催される。大会の運営については、特に具体的な引継ぎがあるわけでもないので、総会当番校はいつも手探り状態なのである。

総会当番校は、準備から当日運営まで全てを任されている。総会のテーマ、会場準備、スケジュール、資料作成、開催案内、物品調達、人員配置などあらゆることをしなければならない。

メインテーマの決定

2000年度後半、私たちは新しい図書館の開館準備業務と会長校任期の最後の集大成の業務で手が一杯だった。4月に入っても会計処理や引継ぎ

業務で何かと忙しい日々が続いていた。そのため、総会に関することは何も確定できないまま5月を迎えていた。

メインテーマを決定したのは、加盟大学図書館への案内文書送付の直前であった。テーマは、「いま、あらためて『活字文化』を考える」。近年の総会のテーマは、電子図書館などの近未来を扱ったものが多く、同様の内容は他でも耳にすることから、敢えてそこから離れ、改めて図書館の原点を見直すという発想から生まれたものである。特に本学が、神田古本屋街にあり、共に歩んできたという歴史もあり、全国の図書館員の方々にも喜んでいただけるのではないだろうかという考えもあった。

運営プロジェクト発足

総会運営準備のために、運営プロジェクトを作って業務を担うことになった。これが発足したのは、2001年5月21日だった。運営プロジェクトの総責任者に武内部長、メンバーに、大野図書館庶務課長、吉田整理課長、図書館庶務課から浮塚さん、水口さん、岡田さん、日熊さん（以下、敬称略）、折戸という構成となった。

5月21日、運営プロジェクト初打合せ。大野から総会についての主旨、全体スケジュール、運営プロジェクトの役割の説明があった。打合せでは、役割分担について検討し、大野は統括を、吉田は大会運営準備関係、会場設営関係、業者展示会関係を、浮塚は当日の総会・研究大会運営関係、慰労会運営関係を、水口は吉田とともに会場設営関係、業者展示会関係を、私は総会・研究大会準備全般の事務、及び、会計、協会役員会関係を担当することになった。

総会・研究大会の準備・運営には幹事会社（(株)紀伊國屋書店と丸善(株)が隔年で担当）がサポートに付くことになっている。2001年度は(株)紀伊國屋書店だった。担当者は営業推進本部営業企画部の杉浦氏。幹事会社は長年総会に関わってきているため、あらゆることを知り尽くしていた。運営プロジェクト発足に先立ち、4月26日に、杉浦氏から全体の流れ、スケジュール、必要となる会場、交渉すべき事項等の概要を教えていただいた。この流れに沿いながらも本学図書館のカラーを出したいという意向を考慮した企画案に対して、杉浦氏には適切なアドバイスをいただいた。

運営プロジェクトが立ち上がり、役割分担が決まると、細かい作業に入る。

初めに総会・研究大会運営にあたり、どんな準備が必要なのかを洗い出し、当日までの業務スケジュールを考えなければならなかった。同時に、総会資料作成に取り掛かった。また、5月12日に全加盟館へ発送した総会開催通知により、申込締切日の6月9日まで毎日FAXが届くことも予想された。参加者名や参加費の納入・金額などの確認も毎日行った。

幹事会社との打合せ

5月24日、業者展示会について杉浦氏と打合せを行った。

まずは設営業者を選定しなければならない。業者出展費をいくらに設定するかも検討した。業者出展費は、総会運営や会場設営にかかる経費のための重要な収入源である。また、学内関連部署の協力を得るため、各部署との打合せ内容を確認した。ブース設営、出展業者の搬入・搬出のタイムスケジュールについても確認した。その他、光熱費、学内LAN、清掃などの話もした。また、地域と連携した大会にしたいという意向から古本市を開催してはどうかという話題も提供された。

配付物のバインダーなどは例年幹事会社が用意することになっているのだが、例年とは一味違う形にしようと検討を繰り返していた。最終的に、バインダーは従来のプラスチック素材は止め、環境に優しい紙素材とした。全配付資料を入れる手提げ袋は、従来の紙袋に幹事会社の社名が入ったものではなく、後の利用も考えて、布袋に社名・大学のロゴマークを入れることで了解していただいた。(株)紀伊國屋書店としては、例年であれば宣伝の一つになるであろう大きな社名の入った紙袋が、小さなロゴマーク入りの布袋に変更となってしまったのだから、不本意だったかもしれない。しかもバインダー、記念品、袋は幹事会社が無料で提供してくれるものなので、金銭面でもどうだったのかと少々心配に思いつつも、こちらの意向を汲んでいただいたことを大変感謝している。

6月1日に業者展示会等の設営業者選定と出展業者公募について、杉浦氏と打合せを行った。設営業者の選定については、(株)日刊工業広告社に決まり、早速打合せを行うことにした。次に出展業者の公募に取り掛かった。

設営業者との打合せ

6月7日、業者展示会に関する打合せには、幹事会社から杉浦氏、設営業者として(株)日刊工業広告社から小祝氏、下請け業者の(株)廣目屋から鈴木氏、運営プロジェクトから大野、吉田、水口、折戸が出席した。ブース設置レイアウトやスケジュールについては大学側の条件を考慮しなければならなかった。そのため、ブース設営レイアウトが何度か変更になり、設営スケジュールについても、他団体の教室使用が予定されており、作業は夜にならざるを得なかった。短時間でブース設営を行うため、簡易で安価なブースに変更し対応することにした。

使用電氣量については、かなり多くなることが予想されていた。設営場所まで引けない場合は、発電車を用意することになるのだが、そうなればまた費用がかかる。出来るだけ発電車の使用は避けたかった。電氣室との話し合いで、何とか確保できるとわかった時はほっとしたものだ。設営に関する費用見積り、展示業者の搬入搬出ルートやそのための駐車場の確保、搬入のタイムスケジュール、そして大会当日の出展業者控室の確保、業者物品保管場所、出展物品に対する保険などを検討、確認した。

総会資料・配付資料作成

6月9日、参加申込み締切り日。この日までに申込みのあった参加者リストの校正を始める。不明な漢字などは電話確認等を行い、細心の注意を払った。総会資料作成については、原稿依頼、原稿作成、校正、印刷、納品、バインダーセッティング作業など当日までに行われる工程を逆算してスケジュールを組んでいた。

総会・研究大会資料の冊子は、表紙、裏表紙、中扉、目次、加盟館名簿、加盟校数一覧表、日程表、次第、総会資料、記念講演レジュメ、研究大会の講演レジュメ、研究大会のシンポジウムレジュメ、出展業者一覧と広告、参加者名簿、委任状提出校名簿から成っている。

目次、日程表、次第は、誤字脱字のないようにすることは勿論、本文の内容と異ならないようにすること、ページの食い違いのないように何度も確認した。加盟館名簿は、前年度と本年度の新規加盟校にしるしを付け

ることになっていて、それが正しく付与されているかも確認した。総会資料のうち前年度報告部分は前会長校が作成するため、これも私たちが作成しなければならなかった。記念講演レジュメ、講演レジュメ、シンポジウムレジュメは、発表者から原稿を頂いた。シンポジウム関係資料は遅れ、当日配布資料として別刷りとした。出展業者の広告は、各社から完全原稿で頂いた。参加者名簿は参加申込書に基づいて作成し、東西部会地区別の大学名の五十音順に配列した。参加者一人一人について永年勤続表彰式、総会、懇親会、研究大会への参加もしるしを付けなければならなかった。委任状提出校名簿作成にあたっては、研究大会にだけ参加しても、総会そのものに出席者のない大学からは委任状が必要であった。そのため、参加申込書、委任状のどちらの提出もない大学に確認をしなければならなかった。全加盟館から回答を得、漸く名簿を完成させた。こうして7月2日に入稿することができた。

資料校正

出展業者説明会前日の7月5日に、総会資料の初校原稿が出来た。これを校正し、7月11日には印刷業者に戻さなければならない。人名、大学名チェックは相当神経を遣った。その他、パソコンで出ない字もチェックし、植字の指示も出した。この段階ではほぼ完全原稿に近い状態にしておかねければならなかった。この頃には運営プロジェクトメンバーは皆、相当熱が入っていたが、その反面、気持ちの余裕はなくなっていたように思う。

7月16日、2校原稿が出来た。3日後の19日には校了原稿として納めなければならなかった。7月18日には、総会資料の印刷に間に合わなかった追加分の作成に取り掛かる。同様に7月初旬から手がけていた昼食マップ、懇親会会場までの案内図の最終校正をしていた。

8月2日に、総会資料が納品され、翌3日に図書館庶務課員、整理課員に加え、部長、課長も総出でバインダーセッティング作業を行った。配付資料は全部で24種類あった。これを間違いなくセッティングすることは簡単なようで難しかった。作業は慎重かつ迅速に行われた。

学内関連部署との打合せ

6月20日、学内関連部署との打合せを行った。学内関連部署は、総務部庶務課、管財部、情報システム部、テイケイ、電気室、野村ビルメンテナンス。運営プロジェクトからは部長以下全員。そして(株)紀伊國屋書店、(株)日刊工業広告社、(株)廣目屋が出席した。

業者展示会における学内LANの使用について、6月20日の学内関連部署との打合せに先立ち、情報システム部と個別に打合せを行った。業者展示会には、インターネットを使う業者があり、例年大学の学内LANを使用することが多い。本学でも学内LANの使用が可能だろうと考えていたが、本学のMIND規程によってそれは難しいということが判明した。情報システム部との打合せの際、この大会の趣旨を理解していただいたが、最終的には情報科学センター長の許可が必要ということだった。6月15日にMIND利用申請書を提出し、さらにSINET利用についても国立情報学研究所に許諾を求め、7月4日に許可を正式に得ることが出来た。

出展業者説明会

6月29日、出展業者申込み締切り日。54社で88ブースという過去最多の出展数となった。

7月6日、出展業者説明会。この説明会では、大学側の条件も提示した。そして、ブースの場所決定をする。各社のブースの場所は、私立大学図書館協会への貢献度の高い業者が優先となり、次に要求ブース数の多い業者が続く。場所が決まると、展示に関して(株)日刊工業広告社と個別に打合せ、物品搬入タイムスケジュールを幹事会社と打ち合わせる。こうして半日かかった出展業者説明会も無事終了した。

懇親会・午餐会

懇親会関係は、総会前日の東西合同役員会懇親会、総会当日の昼に協会賞受賞者および永年勤続表彰者のための午餐会、夜には総会懇親会、大会最終日終了後の関係部署の慰労会と続く。これら全てに出席する人がいる

ことを考え、料理の内容にも配慮した。総会懇親会以外は師弟食堂に依頼し、料理関係の打合せを7月17日に行った。その他、協会役員会の茶菓や昼の弁当、図書館スタッフの大会期間中の弁当の手配もしなければならなかった。総会懇親会は、東京ドームホテルで開催することにしており、料理内容の他に、看板やクローク、会場設営、来賓の接待なども打合わせた。

メインである総会懇親会は、大学内に400人～500人収容できるパーティ会場があれば学内で行いたいところであったが、都心の大学にそんな余裕があるわけもなく、ずっと悩みの種だった。早い段階で、大学内で行うことは諦め、他で場所を探していた。参加者の移動がスムーズに行え、そして魅力的な場所であることが必要だった。周辺のホテルからの誘いもあったが、交通の便を考えると、納得できるものがなかった。参加者から喜びの言葉をたくさんいただき、最終的に東京ドームホテルを利用したことは、様々な面から考えても良かったと感じている。

看板・ネームプレート・座席札

校正作業の合間には、案内板や掲示板、当日の来賓、永年勤続表彰者、新規加盟校、講演者・シンポジストなどの座席札や、参加者の名札、協会役員会関係の机上プレートなどの作成に取り掛かり、8月3日にはこれらを完成させた。大会当日に欠かせない看板等については、参加者にとって目に付きやすく、わかりやすい表示を考えた。また、看板等に関わる細かい備品や消耗品の調達もした。

参加者名札は、一般参加者、出展業者、総会当番校を色分けし、さらに懇親会への参加・不参加の別がわかるようにマークを付けた。

展示パネル作成

総会開催期間に図書館を開館し図書館見学を自由にしてもらうようにしていたが、その他、パネルセッションやギャラリーの展示会を企画していたため、総合サービス課もその準備で追われていた。展示パネルは業者委託で作成することを前提にしていたが、金額があまりにも高いので飯澤総合サービス課長の決断により、自前で作成することになっていた。どう

なることかと心配はしたが、心配無用だった。とても素晴らしい出来栄えだった。大会後もそのまま展示し、利用している。

宅配便手配

総会に遠方から参加される参加者や出展業者の荷物を、会場から配送できるように宅急便を会場内に用意することを考え、ヤマト運輸(株)との打合せを行った。当日、参加者へは司会者から、出展業者へは幹事会社から宅配便が待機していることをアピールし、利用を促すようにした。特別価格も設定していただいたため、相当数の利用があった。

業者展示会設営・搬入

8月3日、学内関係者や設営業者立会いの上、会場の設営前点検が行われた。

8月5日には、業者展示会会場の設営が始まった。この日は日曜日で、リバティタワーの教室は、外部団体の試験会場に使われていたため、受験者が退出するまで音を出すことは許されなかった。そのため、作業は午後7時からの開始となっていた。

設営は、予定通り午後7時に始まった。杉浦氏、吉田、水口は設営会場を確認したり、記録を撮ったりした。特に大きな問題もなく着々と進み、設営が終了したのは、午後11時半くらいだった。

8月6日は、出展業者の搬入が始まる。並行して、協会の東地区部会役員会事務連絡会および東西合同役員会が開催された。この会議に協会の監事校および総会当番校として、野上館長、木谷副館長、武内、大野、折戸が出席した。

警備

業者展示会の出展業者の物品を設置した時点から警備を配置した。警備を厳重にすることは大学側の条件であった。業者展示会会場は勿論、総会当日、陽だまり広場を公開することにしたため、ここにも配置、そして出

展業者物品搬入のための交通整理も依頼した。この警備関係には予想以上の金額を要した。

図書館スタッフへの説明会

総会・研究大会を成功させるには、図書館スタッフ全員の協力が必要だった。当日協力いただくために、スタッフマニュアルやタイムスケジュールを作成した。大会全体のスケジュール、各会場でのタイムスケジュール、担当者タイムスケジュール、担当業務マニュアル等を作成した。非常に細かい、神経を遣う作業であった。いよいよ総会当日が近づき、運営プロジェクトメンバーの忙しさは頂点に達していた。

作成したマニュアル等をもとに図書館スタッフへの説明会を行った。すでに夏期休暇期間に入っていたため、全員が揃う日がなく、各課個別に説明会を設けた。特に大きな混乱もなく図書館スタッフの理解が得られた。

総会・研究大会当日

いよいよ当日。8月7日、総会。8月8日、研究大会。

場内整理の図書館スタッフは、参加者を会場前列から詰めて座っていただくように促した。永年勤続表彰者、協会賞受賞者については、受付でも把握できるようにし、対象となる方々にはリボンを着けていただくようにし、会場中央前列に設けた指定の席へと案内した。来賓の方々には参加者の受付とは別に案内を設け、一人ずつ対応できる体制をとっていた。

午前9時50分、オリエンテーションが始まる。総会・研究大会スケジュールや開催期間における会場や諸注意を参加者に伝えるという大切な役を図書館庶務課の宮澤が担った。午前10時、来賓の方々も着席し、総会開会の宣言を武内が発声する。いよいよ開幕である。

参加者が総会会場に納まり、総会が始まると、場内整理や受付、来賓控室、役員校控室を担当した図書館スタッフはホッと一息ついた。その後の様子は、冒頭に述べた通りである。

おわりに

この総会・研究大会は大成功に終わった。それは、多くの参加者から身に余る賛辞や労いの言葉をいただいたことで改めて実感した。私は、図書館スタッフ全員が成功に向けて努力を惜しまず、業務を遂行してくださったことが成功につながる最大の要因であると思っている。また、(株)紀伊國屋書店の杉浦氏を始め、関連業者の方々、学内関連部署のスタッフの方々、私立大学図書館協会役員校の皆様の支援の賜物と感謝したい。

すべての公式行事を終えた後、学内関連部署、(株)紀伊國屋書店、丸善(株)、(株)雄松堂書店、図書館スタッフを招待して慰労会を行った。

8月9日、会場として使用した場所の特別清掃と最後の会場点検を行った。

会計処理は11月末日までかかったが、8月10日からは大学一斉休暇となり、私たち運営プロジェクトはようやく開放された。

私立大学図書館協会会報に総会・研究大会の記録を掲載する。この原稿として、一部始終をテープ起こしをするのだが、そこまでが総会当番校としての任務である。会報は2002年1月25日に刊行された。

この大会のための準備、当日の運営、そして、残務処理まで約1年半の月日を費やした。私は、この業務を多くの方々の協力を得ながら遂行できたことに感謝の気持ちでいっぱいである。また、一生に一度できるかどうかという貴重な体験をすることができたこと、そして、この期間に様々な方々と知り合え、多くを学ぶことが出来、いろいろな接点を持つことが出来たことは私の人生の宝となるだろうと感じている。